

## 提案 1 自治体間のCO<sub>2</sub>削減コンペ

江戸時代は植物国家であった。今年の太陽はハゼの実となり蠟燭となって今年の明かりとなった。稲わらも、草履、家畜のえさ、縄、土塀の材料として使うなど燃やすことなく、古くなれば田に返せば微生物の餌となり稲の栄養となった。人糞は来年の栄養となって下水道の電力も不要であった。CO<sub>2</sub>排出は極端に少なかったのが江戸時代の日本であった。

これから各自治体もCO<sub>2</sub>削減に参加しなければならない。そこで次を提案したい。

1. 市町村間のCO<sub>2</sub>削減コンペ
2. 表彰及び交付金授与（CO<sub>2</sub>削減効果に見合う交付金）。
3. 国にお願いすべきこと

自治体等、地域からの排出量の計量手法の確立。

自治体向け排出量削減ガイドラインの作成

4. コンペ実施の態様

市町村等自治体は、CO<sub>2</sub>削減が期待される、次のようなメニューから実施計画を作成のうえ実施する。現状に比べて削減量の大きさを、アイデアにおいて、また実施の結果において競う。

（たとえば、CO<sub>2</sub>排出量の大きな既存の工場があるまちとないまちでは初期条件に差が生じる。このような初期条件をどうするか、など詳細は詰める）

CO<sub>2</sub>吸収の高い森林への転換。 地域産木材の多使用。 化石燃料から蠟燭などの多使用へ。 車から乗り合い馬車への転換。 コンパクトなまちづくり。 ソーラーハウスなどの建設促進。 風力等自然エネルギーの多使用。 肥料等生産の省エネルギー化。

その他